



## 自己紹介

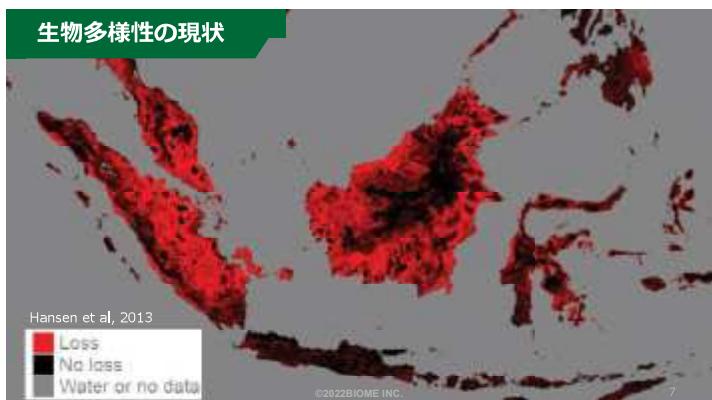
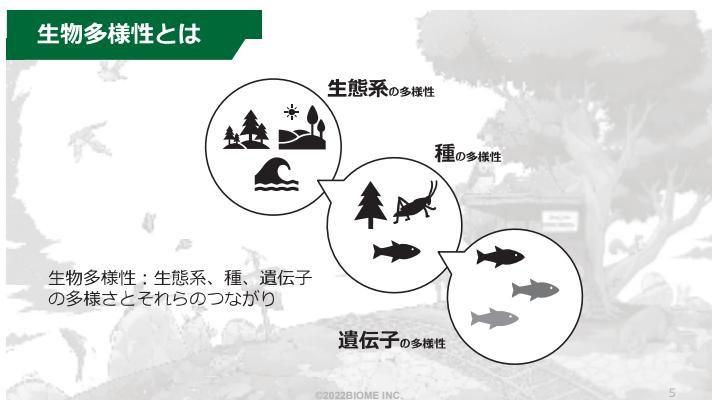
株式会社バイオーム  
代表取締役：藤木庄五郎

2017年3月 京都大学大学院博士号（農学）取得  
2017年5月 株式会社バイオーム設立、代表取締役就任  
2022年1月 環境省2030生物多様性枠組実現日本会議  
行動変容WG 専門委員

●生態学研究者  
●GISと画像解析技術を専攻  
●フロントエンジニア  
●ボルネオ島にて2年以上キャンプ生活

Innovators Under 35 Japan

©2022BIOME INC.



## 現場の状況



9

## 現場の状況



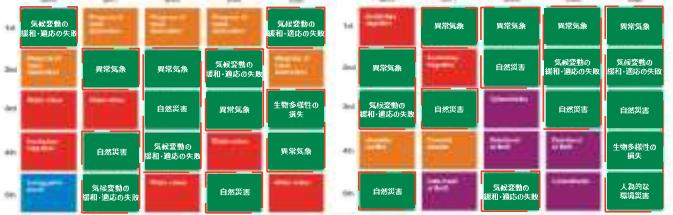
10

## 愛知ターゲット（～2020）



## 世界経済フォーラムのリスク分析

影響の大きいグローバルリスクの上位5位  
(2016-2020年) 発生確率の高いグローバルリスクの上位5位  
(2016-2020年)



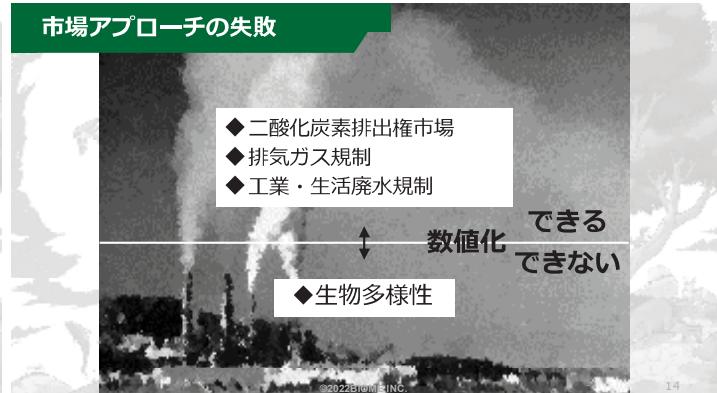
・出典：世界経済フォーラム(2020)「グローバルリスク報告書 2020年版」  
[http://www3.weforum.org/docs/WEF\\_Global\\_Risk\\_Report\\_2020.pdf](http://www3.weforum.org/docs/WEF_Global_Risk_Report_2020.pdf)

## 生物多様性保全の課題



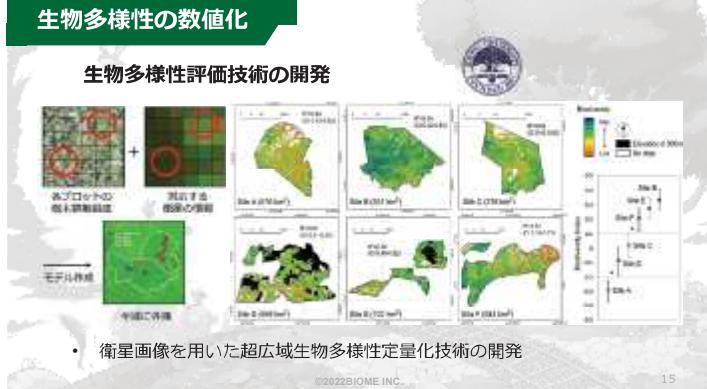
13

## 市場アプローチの失敗

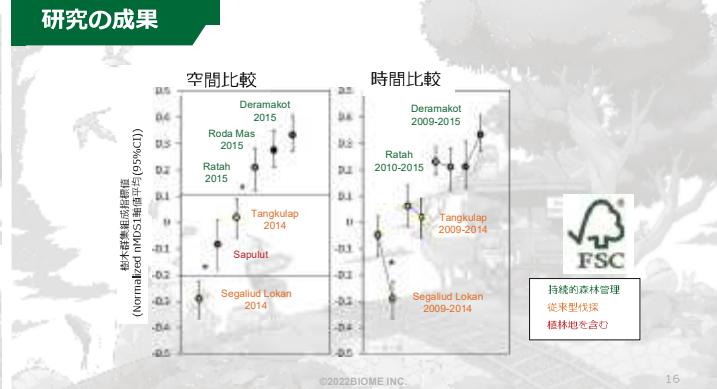


14

## 生物多様性の数値化



## 研究の成果



16



## スマホでモニタリング

全世界に40億台普及するスマートフォンに着目  
モバイル端末を生物分布の観測拠点にし、  
膨大な生物データを取得する仕組みをつくれないか？



©2022BIOME INC.

18

## 市民科学

### 市民科学（シチズン・サイエンス）

市民の、市民による、市民のための科学。

複雑で高度な専門知に立ち入らねばならない場合であっても、市民がそれを回避せず、しかも専門の細分化に足をすくわれることなく、生活の総合性をみすえて問題解決にあたること

出典：市民科学研究室

GlacierNPS [Public domain]

©2022 BIOME INC.

19

生物多様性をみんなでモニタリングして、  
保全を加速させるデータプラットフォームをつくる

©2022BIOME INC.

20

### いきものコレクションアプリ「Biome（バイオーム）」

生物分布データ×名前判定AI

生物多様性を  
楽しみながら調査！



©2022BIOME INC.

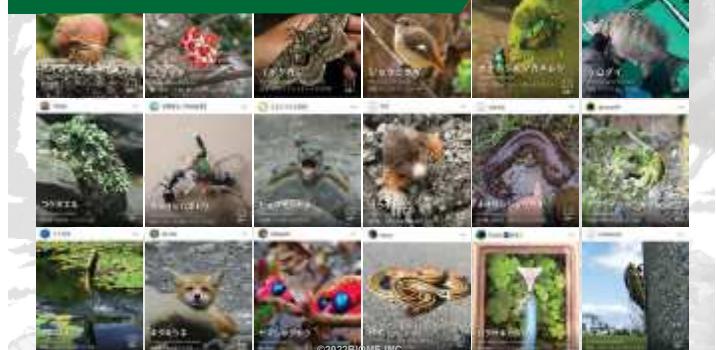
21

ポイント1：楽しく

©2022BIOME INC.

22

## ゲーム感覚でいきものをコレクション



## Biomeの特徴①

ゲーム感覚で誰でも楽しめる！



24

## Biomeの特徴②

いきもの好きの  
活発なコミュニケーション



ポイント2：誰でもできるように

©2022BIOME INC.

26

## Biomeの特徴③

名前判定AIによる徹底サポート



## バイオームの技術

いきもの全種に対応した名前判定AI

- 撮影したいきものの名前をAIで判定
- 現在、国内全種 約94,000種類に対応
- 生物の「生態学的ニッチ」の概念を取り入れた世界初のアルゴリズムで特許を取得

安全な入力が最も優先。相互通話は対応していません。

利点・技術には画像に位置情報が付与されている必要があります。

©2022BIOME INC.

28

## 使用している様子



## Biomeの特徴④

日本最大級のいきものコミュニティ



## Biomeの普及状況

累計1億2千万PV

ユーザー  
41万人



## 収集されたデータ

発見個体数：  
**2,256,010個体**

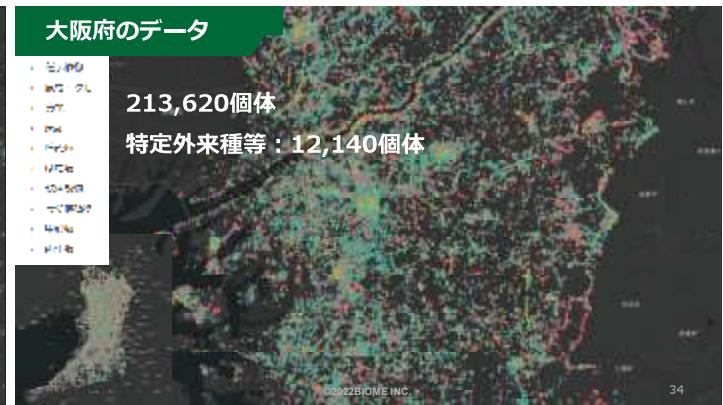
©2022BIOME INC.

32

## 収集されたデータ



## 大阪府のデータ



## データ例：外来種の拡大



## データ例：外来種の拡大

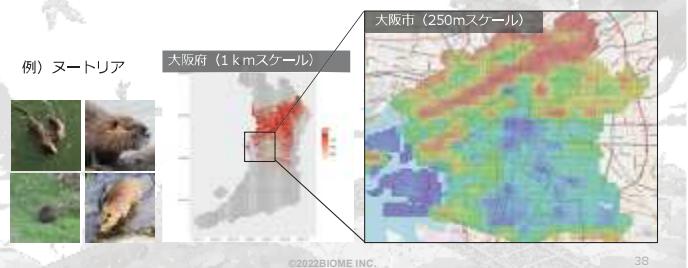


## データ例：気候変動による分布変化



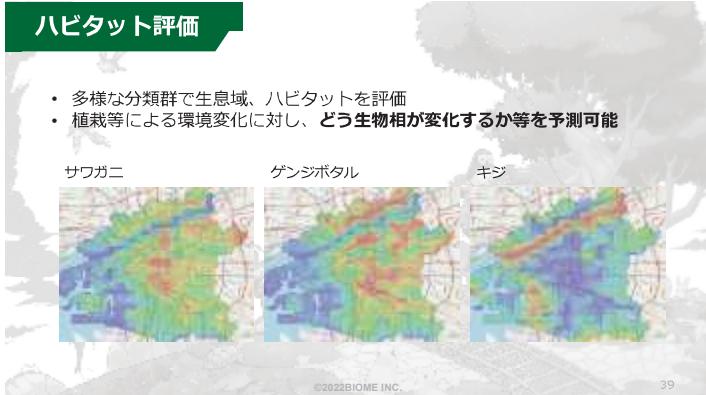
## 生物の分布予測（生物多様性マップ）

- Biomeで収集される生物分布ビッグデータと環境情報を合わせて、各生物種の分布を予測。様々な地域スケールで出力可能



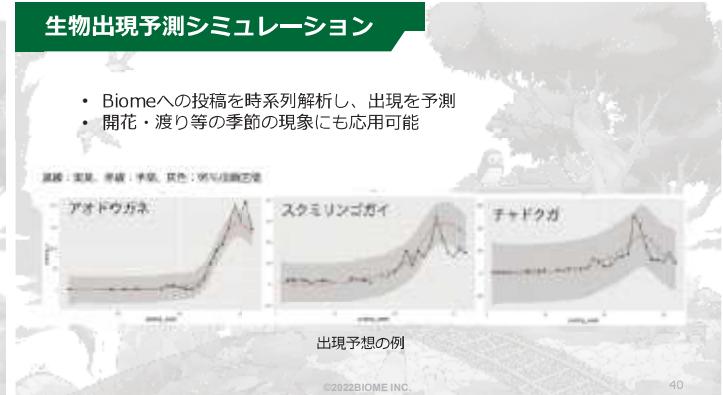
## ハビタット評価

- 多様な分類群で生息域、ハビタットを評価
- 植栽等による環境変化に対し、どう生物相が変化するか等を予測可能



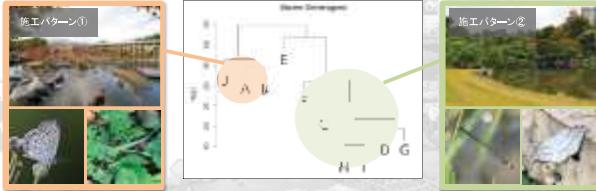
## 生物出現予測シミュレーション

- Biomeへの投稿を時系列解析し、出現を予測
- 開花・渡り等の季節の現象にも応用可能



## 生物多様性の類似度解析

- ・緑地の管理方法による生物相の類似度の違いを検証  
例) 階層クラスター解析、非階層クラスター解析、主成分分析等



施工方法の異なる日本庭園の生物相をクラス分けした例（造園学会2022にて袖ヶ加藤造園と共同で発表）

©2022BIOME INC.

## 起こった変化

ステイホームの為、脚始し、楽しんでおります。草花、木を何気なく見るのでなく、知識を得られ、素晴らしいアプリだと思います。ありがとうございます。

このアプリを使い始めたから公園などで散歩が楽になりました。また、小さな虫などの名前も分かるようになって世界が広がったように思います。

このアプリに出会って生き物探しがより楽しく便利になりました。  
見つけたものをマイページでライブ化できるし、地域性なども調べられます。今まででは見逃すような地味（？）な生き物にも興味や関心を惹きさせることができます。

これからも私と一緒に楽しく活用させていただこうと思います、ありがとうございます。

始めたばかりですがこのアプリのおかげで、毎日とても楽しく有意義に過ごさせていただいています。いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

©2022BIOME INC.

42

## 産官学民の連携

©2022BIOME INC.

## プラットフォーム機能：クエスト

ツバメの写真を投稿すればクリア

- ・データ収集の仕組みを外部組織が利用可能
- ・クエストを発行してユーザーを巻き込む
- ・収集されたデータを提供



©2022BIOME INC.

44

## 事例：大阪府での一斉生物調査

大阪府内の外来種の分布を一斉調査。在来種も含めて、3カ月で13,000件のデータを収集。



©2022BIOME INC.

## 事例：アメリカナマズ調査

全国のチャネルキャットフィッシュ調査



©2022BIOME INC.

46

## 事例：環境省との取組み



47

## 事例：環境省との取組み

調査結果は、専門知識を持たない市民でも直感的かつ容易に理解できるよう、絵や写真を交えて、グラフ・図表等の資料にまとめる。本年度データだけではなく、過去データと併せて掲げる。

例)

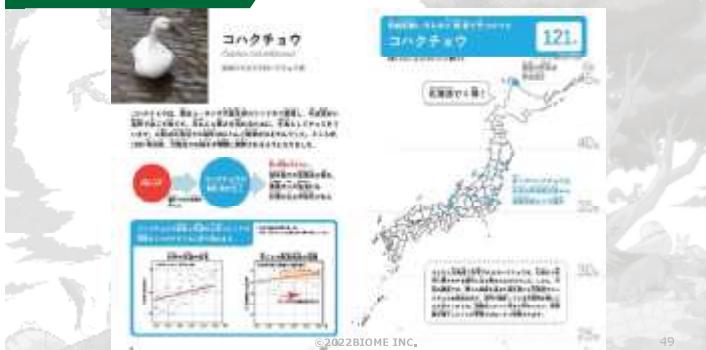
- ・平均気温の上昇と分布域の北上を示すグラフ（左）
- ・温暖化の進行と分布域の拡大を日本地図上で表現する図（中央）
- ・温暖化の進行と植物の開花日を示すグラフ（右）



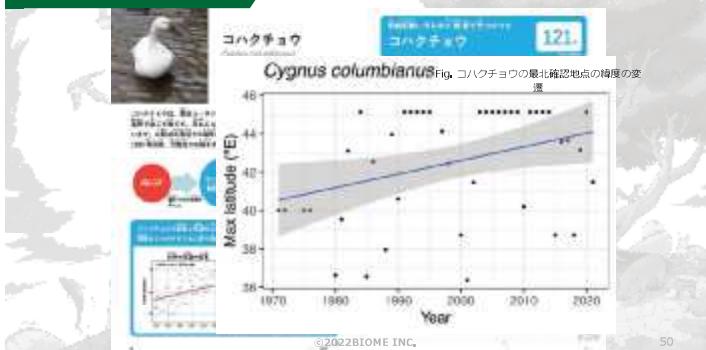
©2022BIOME INC.

48

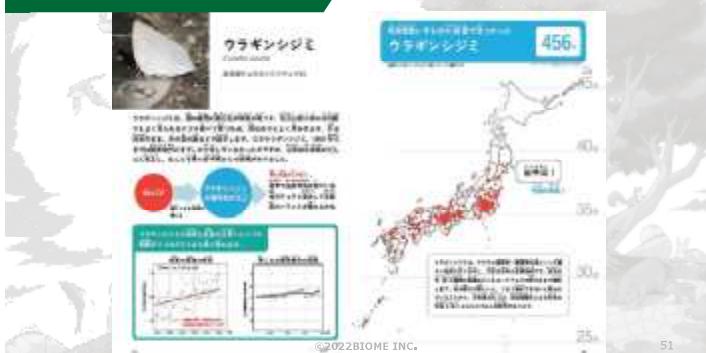
## 温暖化の影響評価



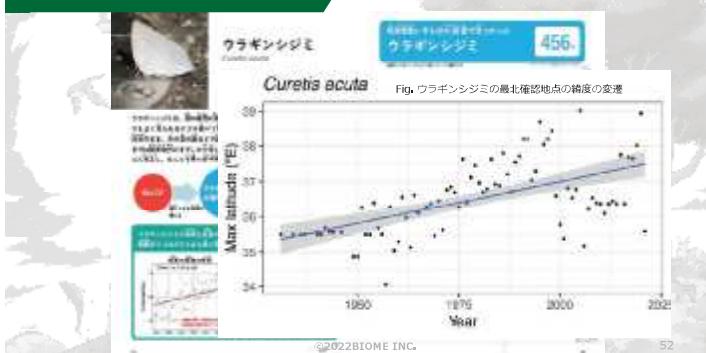
## 温暖化の影響評価



## 地球温暖化の影響を評価



## 地球温暖化の影響を評価



## 事例：京都府城陽市でのICT教育



京都府城陽市の小学校で配布されている教育用タブレットにBiomeを導入

生物を探しながらプログラミングやAIの仕組みを学べる  
ICT教育を実施。

## 事例：帯広畜産大学との連携



## 事例：日本自然保護協会との連携



## アプリの使い方について



©2022 BIOME INC.



57



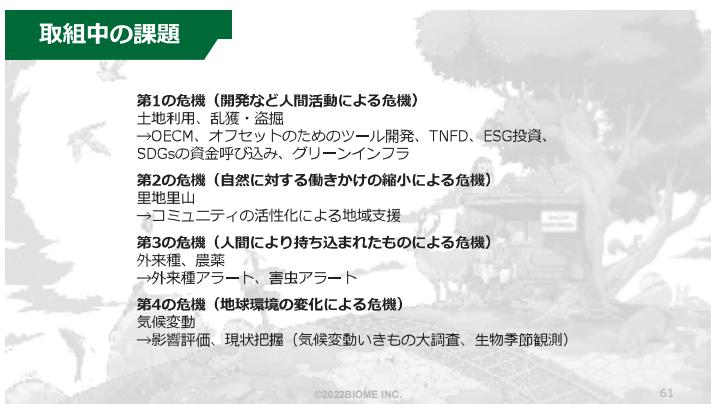
58



59



60



61